

Mt.FUJI100 2025 事業報告会議事録

日時：2025年6月19日（木）14:30～17:00

会場：富士北麓公園 会議室

出席者：

2025年6月19日

No	氏名	所属・部署
1	渡辺 公秀	富士五湖消防本部 救急課
2	仲原 沙希	環境省富士五湖管理官事務所
3	セルナルド 裕慈	富士宮市 産業振興部 観光課
4	影山 秀雄	日本野鳥の会 南富士支部
5	秋元 芳武	環境省公園指導員 ネイチャーナビ
6	市川 洋介	富士市 交流観光課
7	藍田 祐己	富士市 交流観光課
8	渡辺 翔	忍野村 教育委員会
9	福田 六花	Mt.FUJI100実行委員会 大会プロデューサー 一般財団法人日本トレイルランニング協会会長
10	千葉 達雄	Mt.FUJI100実行委員会 共同代表 株式会社ソト工代表取締役 一般財団法人日本トレイルランニング協会理事
11	岡嶋 智己	Mt.FUJI100実行委員会 競技ディレクター 株式会社アールビーズ
12	神谷 知里	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
13	鈴木 磨美	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
14	太郎良 雄己	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
<b>リモート出席</b>		
15	丸山 洋	峡南広域行政組合消防本部 警防課
16	細萱 宏樹	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
17	織田 遼太	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
18	田中 千夏	山梨県環境・エネルギー部 自然共生推進課
19	西山 洋哉	御殿場市 スポーツ交流課
20	尾崎 希望	御殿場市 スポーツ交流課
21	佐藤 友香	山中湖村 観光課
22	田近 義博	Mt.FUJI100実行委員会 共同代表 リージョンポート合同会社代表
23	関谷 正太郎	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
24	磯崎 昭浩	Mt.FUJI100実行委員会 事務局

## 議題

- (1) 2025 大会事業報告
- (2) 環境モニタリング調査報告
- (3) 質疑応答
- (4) その他

<大会プロデューサー 福田 挨拶>

「皆様ありがとうございます。今年の4月に Mt.FUJI100 を開催させていただきました。2012 年から開催されている大会ではありますが、途中コロナのため実質 11 回目の開催となります。今年は天候が恵まれたこともありまして無事に安全に開催することができました。これは本当に関わっていただいている皆様のおかげです。本当にありがとうございます。

今日は実績の報告、来年へ向けての様々なご意見いただき様々なところへアプローチをしながら大会を作っていくしたいと思います。世界的にも注目度の高い大会になってきておりますので、日本を代表とする大会として皆様と作っていかれたらと思います。よろしくお願いいたします。」

### 【2025 大会事業報告】

<共同代表 千葉>

- 日程：4月25日から27日までの3日間。
- 世界44カ国地域から約4000名が参加  
(海外比率が高い。香港、台湾、中国、タイなど)
- 新種目としてASUMI40kを開催。参加者は約200名。
- FUJIに関して送電線下での渋滞が発生。次回大会では人数の削減をしさらに対策が必要。
- 入賞者：男女ともに海外選手が入賞
- EXPO：日本最大級 47ブース
- IBUKI GPS：GPSのトラックのレンタルを安全管理の視点からも導入している。
- SNS：InstagramとYoutubeのフォロワー数は伸びているが、英語版、中国版にも力を入れて取り組んでいきたい。新しい露出を開拓も課題となる。

### 【質疑応答】

<環境省富士五湖管理官事務所 仲原様>

「選手同士ではなく、それ以外での接触や事故などがなかったか。  
また地元の方々に大会があることの告知を十分に行なっているか。」

<共同代表 千葉>

「環境調査報告書にアンケート調査があり、結論から言うと大きな事故はなかったと思っている。しかしボランティアさんの報告などを聞くと、応援者と思われる人が夜中に大会コースに入って行くことに揉め事があったようだ。我々が占有しているわけではないのでマナーを守ってと呼びかけている。海外の大会にはコースの両サイドが応援者でいっぱいである光景が見受けられる。少なくとも国立公園の富士山では馴染まないものであると思っているので奨励はしていないが、年々応援者が増えているため応援マナーとの共生は考えていかなくてはならないと考えている。

地元への周知はできる限り頑張っていきたいと思っているが、悩ましいことが2点ある。

1点目は、実際に調査すると『(大会があると)知らなかった』と答える方のほとんどが県外者である。地元でいくら周知しても山に来る方は県外者であること。

2点目は、交通規制の看板は何週間か前に立てているのと同じように国立公園の入り口に大会告知看板を立ててはどうかという指摘が以前からありましたが、広告物申請の観点からはやらない方がいいという結論になる。逆に皆様からお知恵をお借りしたいと思っている。」

#### 【環境モニタリング調査報告】

<共同代表 千葉>

- ・調査箇所について大会後整備を要するような大きな問題はなかった。
- ・大会前に雨が続いたため、土壌硬度の計測に影響が出てしまい正しく計測ができなかった。
- ・明神山～切通峠は複線化している。
- ・明神山はコース変更があり、モニタリング箇所を変更。  
ガイドロープを設置し、完全にコースを示す箇所も作る。  
今後は富士箱根トレイルランナーズ倶楽部とも相談をしていく。
- ・鳴沢氷穴、パノラマ台に訪れる人はほとんどが県外者である。
- ・鳴沢氷穴のトイレ、自動販売機のゴミ箱の汚さが指摘されているが、大会後に清掃を行なっている。
- ・大会のマーキングテープ、コース標識、注意喚起看板は広告物ということで白ベースに焦茶色の表記ということに準じて行なっているが、見づらく道迷いをしやすく、登山者にも混乱を招いているという指摘をされている。山梨県では安全に関わるものは広告物の申請の要件からは外れている。静岡県の広告物の申請に関して、山梨県の基準に準じて安全管理に関わる場所は申請から外していただくと問題の一部が解決できるのではないか。

#### 【質疑応答】

<環境省富士五湖管理官事務所 仲原様>

「環境モニタリング調査について毎年環境省の指針に基づいて行なっていただいているので問題はないが、モニタリングポイントで問題ないところは他の箇所に変えるなどの見直しをされているのか。」

<共同代表 千葉>

「報告会後に行なった方がいいとご指摘いただいた箇所については追加して行うようにしている。問題がなかったので調査をしなくていいというようなことはしていない。環境省のモニタリングの指針が平成27年に出されて、2年間かけて作られた。大会に関しては問題がないかもしれないが、同じ場所で写真を撮って記録しているということが資料としてないので、問題がなかったとしてもずっと記録していくということが大切であるという話を受けて、大会としては問題ないが資料として貴重になると考え継続的に調査している。明神山に関してはコース初年度となる。ここは水が流れて土壌が流出する場所なので今後どうなっていくかを見るという効果があると思っている。貢献できるよう同じものを作っていこうと考えている。」

<環境省富士五湖管理官事務所 仲原様>

「石割山に整備に入っている NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部からもモニタリングポイントではないところで複線化しているという報告を受けている。見えていないところで踏圧の影響があるポイントがあるのではないかと懸念している。選手は GPS を持って走っているということで渋滞などが起こる場所、圧がかかってしまう場所がデータとして見えてくるようになってきているのではないか。そのような観点からもモニタリングポイントを見直しということも一緒に検討できないかという提案である。」

<共同代表 千葉>

「混雑具合はデータとして見ることができ、我々も把握している。その情報も共有しながら、NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部からも話は聞いているので、総合してモニタリング箇所の変更や追加は柔軟に対応させていただく。」

<環境省公園指導員ネイチャーナビ 秋元様>

「会計報告を見せていただきたいと述べたときに HP に掲載しているという答えをいただいたが見つめることができなかった。3 年くらい前には赤字であるという話も聞いているので実際にどういうふうにお金が流れているのか見る機会がどこかにあるか、掲示していただくことは可能か。

主催者側が医療要員を確保すること、救急車を有料で確保するなど必要ではないか」

<共同代表 千葉>

「会計報告は今、HP 上では掲出していないが、後援をいただいている方には報告書と一緒に提出しているものなので、提出すことは問題ない。我々が隠すものではなく、必要であれば郵送で送ることも可能である。」

<大会プロデューサー 福田>

「救護に関して自分たちでやるという準備は整えている。大会期間中医師は 15 人、看護師は 30 人弱、それ以外に救命救急士がおり救護チームを作っている。各チームはエイドや山の中におり、何か起こった場合すぐに対応できるようにしている。最終的に病院に搬送するというケースもあるので、消防にお願いした方が安全性が高まる場合はお願いすることも。これは消防を頼っているということではなく、事前から情報を共有して相談をしながら救助や救護の体制は整えている。救助に関しては日本トップレベルの山岳救助の方を 4 人ほど雇っていただいている。こういった事は表に見えにくいが行なっている。」

<共同代表 千葉>

「広域で行なっていることなので、地域によっては医療体制が脆弱であるということも聞いている。あらかじめご協力いただく医療機関にはご相談をさせていただいて、ドクターヘリでの搬送の可能性があることも確認している。今大会は緊急搬送が 2 件あり、これがもちろん 0 であることが望ましい。我々も地域医療に迷惑をかけないように引き続き運営をしていく。」

<日本野鳥の会南富士支部 影山様>

「初回から関わっているが毎回開催時期が気になっている。開催時期を野鳥の繁殖時期とせずしていただきたいと述べているが、今回 4 月末の開催ということでギリギリである。4 月半ばには渡っているし、その後繁殖行動が見られる。なるべく繁殖行動が見られない時

期に、秋に開催をしてほしい。今後の開催時期についてどのように考えているか。」

<共同代表 千葉>

「結論から述べると開催時期の変更は考えていない。理由としては秋の開催はご存知のとおり過去 2 回人命に関わることがあった。温暖化も進み、8～9月の開催は不確定要素が多い。11月になると夜間の温度が低くなりリスクが高くなる。野鳥関連の方々のお話は重々承知している上で、我々のできうる限りの配慮や対策をし、同時期に開催をせざるを得ない。」

<静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 織田様>

「環境モニタリング調査について、エリア5の竜ヶ岳のコースについて昨年8月5日に事務局磯崎様と現場を確認した中でエリア5-2と5-3の間にぬかるみが生じている箇所があり調査箇所に追加していただきたいというお願いをしたのだが、追加の確認ができていないので検討をしていただきたい。必要であればまた一緒に調査にも伺う。」

<事務局 磯崎>

「ご指摘いただいた箇所は追加している。エリア5-2、P55-56を確認いただきたい。」

<静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 織田様>

「確かに写真を確認するとわかりました。P9の調査箇所が昨年そのままなのでこちらもご確認をいただきたい。」

<コースディレクター 千葉>

「P9に関しては、調査書の作成者に確認して、修正する。」

## 【その他】

<コースディレクター 千葉>

○次回大会に向けて

- ・竜ヶ岳の通行に関して、登山者の数が年々増えている。環境面の観点からもコースから外すことも検討している。
- ・富士宮エイド、でのタイムアウトが多いため渋滞解消のためFUJI100miに関して参加者数を減らすことを検討している。インバウンドや人気のあるカテゴリーであること、また美しい地域を知ってもらうという観点からASUMI40kの参加人数を増やしバランスを取る。
- ・コース、参加人数は検討要項とし、変更の可能性がある状況である。

<コースディレクター 千葉>

「消防の観点からご迷惑などなかったでしょうか。」

<富士五湖消防本部救急課 渡辺様>

「福田先生を中心に、ご説明もいただき救護用ヘリの確認もしていただいたということで、今大会に関しては重症者もおらずスムーズに行われたと聞いている。来年もこのようにお願いしたいと考えている。」

議事録作成

Mt.FUJI100 実行委員会 事務局  
鈴木 磨美